

男性社会の掟を変えるにはそこに女性が入ること

第5条では国・地方自治体、身のまわりの地域社会や民間団体において、男女が対等な構成員として社会を共に作りあげていくことをうたっています。従来から、政治は男性のものという認識がありました。ここでは地方の町で活躍している2人の議員に「女性が政治に加わると町がどう変わるのか」を中心に話をうかがいました。4期連続当選の富士川町の太田美美子議員、50年ぶりの女性議員となった三ヶ日町の宗田たづ子議員からは「暮らしやすい町にしたい」との思いが強く感じられました。

政策等の立案及び決定への共同参画
男女共同参画社会の形成は、男女が、社会の対等な構成員として、国若しくは地方公共団体における政策又は民間の団体における方針の立案及び決定に共同して参画する機会が確保されることを旨として、行われなければならない。

選挙をするたびに

小さな輪が大きな輪になります

仲間の声を届けたい



庵原郡富士川町議会議員 **太田美美子**さん

2人の娘はそれぞれ自立し現在は夫と2人暮らし
静岡県コミュニティカレッジねっとワーク会長
静岡県青少年育成アドバイザーの会長

「私が選挙に落ちても離婚しないね」「あたりまえだろう」。パートナーの応援は心強いものです。「町づくりをしてみよう」。落ちてはもともと、今回は知名度を高めるだけでも良いと、前向きに考えて出馬しました。

最初に手がけたことは、「女性活動センター」の開設でした。このとき、名称を「婦人」ではなく「女性」にすることにこだわり、男性議員からは随分反発されましたが、粘り強い説得で理解を得ました。四期目の現在では「もつと女性の議員が多くてもいいよね」「半分ぐらいでもいいんじゃない」という声が町内から聞かれるようになりました。太田さんの明るさと長年の実績が男性議員自身の意識を変え、議員を「名誉職」ではなく、「民意を代表して政策を立てる人」へと変えさせることに役立ったようです。

大切なことは目標と協調

取材の終わりに、社会に参画していこうという女性に向けてひと言をお願いしたところ、「女性が参画しても政治の場はすぐに変わリません。議会の中で一匹狼にならないこと。議案を通すには大事なことです。今、女性に願うことは、同性の足を引っ張らないで育てて欲しいということ。そして、ペーパーの学習ではなく、自分を殺すことも勉強し、社会性と社会の掟を身につけ、もつと『大人』になってもらいたい。それから、お互いに助け合うことも大事です。いつでも応援します」とのメッセージをいただきました。

母親の立場で政策づくりに取り組んでみたい

富士川町議会議員四期目の太田美美子さんが議員になろうとしたのは『せきれの会』の活動がきっかけでした。昭和五十五年ころ、長女が通う中学校では、家庭内暴力や万引きなどで子どもたちが荒れていたため、十人ほどの母親たちで学習会を結成しました。まわりの男性からは、当時流行の「飛んでる女だな」との冷やかな声が聞かれましたが、太田さんは『せきれの会』の名を知られることも面白いと平然としていました。「独身のときも子育て中も町の行政に興味があり、密かに学習をしていました」という太田さんが政治に関心をもった原点は祖父。子どものころから「女も自立が大切」の祖父の考え方ののびのびと育てられました。しかし、まわりの人を見たときに「どうして男女で差があるのか」と不思議に感じていたそうです。

静岡県の県・市町村議会の女性議員数

	女性議員	男性議員	議員定数
県議会	2	76	78
市町村議会	88	1326	1414

平成11年8月現在

自分の町が好きだから、 やりたいことが膨らみます

もう一つの人生を生きる

友人の勧めで出馬することになった、宗田たづ子さん。家族の一人でも出馬に反対しただけのつもりでした。選挙の八か月前に夫に打ち明けたら「誰でも勧めてもらえるわけではないから。良い勉強のチャンス。決めるのはあなた自身」とうれしい後押しのことばが返ってきました。

暮らしやすさを考えて

「政治の場で生活の基本は決まります。政治の中に生活感を持ち込むと、暮らしやすさが増します」と、福祉センター直通だった福祉バスの例を挙げてくれました。

宗田さんは他の議員の応援を得て、公共の移動の手段の少ない三ヶ日町では、「お年寄り、自分の行きたいところへ自由に移動ができること」が暮らしやすさの基本と考え、議会に提案しました。現在では降りたいところで降りられるように変更され、病院通いも楽になりました。

定数十八人の議員の中で女性は一。嫌なことがあったときに、「やりがいがあるね」と受け止めてくれた夫のひと言が、宗田さんの力になったそうです。

地域の実態に

合わせた行政を

「君の発言は勇気があるなあ。」



引佐郡三ヶ日町議会議員 **宗田たづ子さん**

編み物教室とおしゃれ小物や子どもたちの好きな雑貨を取り扱う店「シャン」を四辻坂商店街で経営
息子が進学し夫と2人暮らし



平成11年4月の統一地方選挙では女性議員の躍進が目立ちましたが、地方議会における女性議員はまだ少ない状況です
参考「市川房枝記念会」調べ

男性の理解と応援は心強いものです

宗田さんの後援会長 夏目恵次さん

後援会長を引き受けた理由は「彼女が三ヶ日町を好きなのと、商店のおかみさんではなくて、経営者であるということ。最後に小学校からの幼なじみだしね」と話す夏目恵次さんは、商店街での女性の活躍をよくわかっている人です。「男性が女性を支えるために商売にならないことをするなんて……」などと陰口もいわれましたが、宗田さんとは、三ヶ日町が大好きな者同士。町を住みやすくするには、「町政に関わること」というのが2人の共通の思いです。現在は、宗田さんと「フリートークの会」を開催し、町政の情報の提供と議会の動きを報告しています。



宗田さんの店の向かい側で化粧品店を経営する後援会長の夏目恵次さんと息子の三央くんは心強いサポーター

第6条

わっとわあく流 人生ゲーム

男と女のライフステージ

家庭生活、職場や地域活動の中で、男性と女性の役割や慣習には固定化の傾向が強く残っています。「男性だから」、「女性だから」ではなく、お互いが協力しあい、家庭生活とそれ以外の分野における活動とを両立し、バランスよく生きることが必要です。ここでは、家庭生活の様々なできごとから夫婦のパートナーシップを取り上げ、男女の間のかたよっている役割分担意識について考えてみました。そうすると、子育てや介護などを、男女のパートナーシップだけでなく、社会も共に担い、支援を充実させていくことが、男女共同参画社会を進める第一歩となるのだと気づかされます。あなたはどうか考えになりますか？

家庭生活における活動と他の活動の両立
男女共同参画社会の形成は、家族を構成する男女が、相互の協力と社会の支援の下に、子の養育、家族の介護その他の家庭生活における活動について家族の一員としての役割を円滑に果たし、かつ、当該活動以外の活動を行うことができるようにすることを旨として、行われなければならない。

恋愛
結婚する
結婚しない

結婚

夫婦同姓・同居・事実家事の
夫婦別姓・別居婚
分担

親と同居
する
しない

子どもを
生む
生まない

子育て

父親が・母親が
育児休業制度を利用
退職し子育てに専念
保育園に子どもを預ける

家庭的立場は 社会的立場で決まる

◆妻から—子どもが病気をしたら、仕事を休むのは私です。夫は「社会的立場の差があるから仕方ないだろ」といいます。じゃあ、私の社会的立場はどうなるの。

妻は特別

◆夫から—同僚の女性が働く姿は輝いて見える。でも、妻が求人雑誌を見てみると、つい「働かなくていいよ」といってしまう。家事は基本的にやれる人がやればいいけど、せめて娘が学校に入るまでは家にいてくれないと困るよ。

男も子育てには不安

◆夫から—今は仕事楽しい。まわりから「子どもはまだ？」とよく聞かれるので、いつも適当なことをいって切り抜けているけど、子ども中心の生活スタイルに変わるのが実のところ嫌だ。商売は軌道に乗っているけど、養っていけるか不安もある。

仕事と家事の両立は女だけ？

◆妻から—共働きのままで子育てをしたかったけれど、親と同居しているから保育園では入所不利といわれ、夫は帰りが遅いし、私が仕事を辞めざるを得ませんでした。姑からは「よく辞めてくれた」とおほめの言葉。必然的に夫は外で働き、妻は家庭ということになり、今ではほとんど母子家庭のような雰囲気。

先輩女性の気配り……

◆妻から—共働きだから結婚として使うつもりでした。から帰ってみると、職場の姓の名刺が……。職場の女くれたんですけど、ありが名乗るとは誰にもいってな

働く妻へ

◆夫から—洗濯物を干すことになるけど、料理は好きだ働いて充実している妻を見うけど……帰宅しても夕飯頭にくるんだよね。

夫にだまされました

◆妻から—家事が苦手な私は、夫になる人にそのことを打ち明けたところ、「大丈夫、僕の父親はご飯も作るし、洗濯もするよ」と頼もしいことば。しかし、結婚後はあまり家事をしない彼にこの話しをすると、「あれは父親の話で僕はしないんだよ」だって。夫にだまされた気分……

女は白、男は黒

◆妻から—夫の住んでいたマンションに、そのまま身ひとつで一緒に暮らし始めたときのことです。「普通は嫁入り道具に白の家電ってのを持ってくるんじゃないの？」と夫からいわれてびっくり。女は白、男は黒もの家電なの？

婚後は旧姓を通称ところが新婚旅行机の上には、夫の性の先輩が作ってた迷惑。夫の姓があったのに。

きだけは人目が気し、洗濯もする。ると楽しいって思ができていないと

男と女の えーっ！ピソード

家庭生活の中
それぞれの家
か。「こんな
では、男も女も同じように子育てや介護をする権利と責任があります。庭の中ではどのようなパートナーシップが成り立っているのでしょうか」というようなエピソードを拾い集めてみました。

子どもの教育

学校とのつながり
家庭教育

名簿の名前は「男性」限定？

◆妻から—PTAの地区代表を引き受けることになったときのこと。前年の役員さんから、「夫の名前を出すように」といわれました。実際の役割は私が行うので、私の名前を使いたいと夫に相談すると「俺はやりたくないから君がやれば」といわれ、そのまま私の名前で押し切りました。できあがった名簿では、私の地区だけ女性名でした。

忙しくなったのは私だけ

◆妻から—夫が家事を分担してくれると淡い期待をもって、子育てが一段落してからパートに出始めました。でも、忙しくなったのは私だけ。職場の愚痴をいえば「辞めれば？」と一言。夫が愚痴をいったときに、私が同じ台詞をいい返したら「僕が辞めたら君たちはどうなるの？」といわれました。

妻にはいえない

◆夫から—最近是不景気だし、私よりフリーターの息子のほうがたくさんお金を持っているんじゃないかな。本当は転職したいけど家族は5人。去年家を新築したばかりだし、妻にはとてもじゃないけど切り出せないよ。

私じゃだめなの？

◆妻から—夫婦で招待された結婚披露宴のことです。都合で出席できなくなった代わって、頼まれたスピーチをしよう切っていたのですが、「他の人にお願した」という連絡が。私じゃだめなの？

「よろしくね」と いわれるけど

◆妻から—私の親の介護に快く送り出してくれる夫の理解に感謝しています。でも、あるときの夫のことばに「僕のお父さんのときもよろしくね」ですって。

台所に入るのはいつ？

◆妻から—家事は女の仕事とばかりに暮らしてきましたが、私に何かあってからは遅いので、夫にも少しずつ台所に入ってもらう料理を覚えてもらおうと思っています。でも、夫曰く、「おまえがいなくなればやるよ」とは情けないばかり。

うちの幸せなはず

◆夫から—男も女も働くのがあたりまえ。2人で働いたから家も新築できたしね。今では俺の方が早く起きるから、炊飯器のスイッチを入れて、汁のお湯を沸かしておいてやるし、迎えるもしてやるんだからうちの幸せだよな。

これでいいのかな

夫のために

◆妻から—夫が転勤することになったので、私は仕事を退職し専業主婦になりました。同じような女性が社宅に何人もいて、挨拶に行ったら上司の奥さんから「これからは一緒に遊びましょう」といわれてドキッ。会社での立場のためには、夫にブラ下ったふりをして、気配りをするのは妻の役目？

夫のお昼ご飯

◆妻から—いままで積極的に地域活動をし、自分の時間を作って楽しむようになってきました。ところが、夫が定年退職さあ、出かけようと思っていると「おと夫にきかれて出かけにくいっとならない。

介護当番表の名前は……

◆妻から—姑が入院したときのことです。もちろん私も付き添うつもりでいたのですが、いつの間にか、姑の姉妹、娘や嫁といった女の名前だけの付き添い当番表ができていました。

反乱も覚悟の上？

◆夫から—一家にいると何も知らない。「男子厨房に入らず」という母のしつけのせいかな。とにかく奥さんはよくやってくれる。すべてまかせっきり！きつと、そのうちに「反乱」があるね。怖い。

「ありがとう」が悔しい

◆妻から—夫は定年後、よく家事を手伝ってくれます。でも、あくまでも女の仕事を手伝うという考え方。「やってやったんだから、ありがとうくらいいいよ」とさうりといっのけられるのが悔しい。

妻の職業

正社員・パート・派遣社員
研修・昇進

夫・妻の転勤

単身赴任
家族で転居

地域活動

まちづくり
環境・福祉・教育
冠婚葬祭

介護

実の親の介護
舅姑の介護

老後

生きがい探し
夫・妻の介護

NOW and AFTER

AREA NEWS

平成12年2月に静岡県で初めて小笠郡大須賀町が「男女共同参画都市宣言」を行います。

- ・男女共同参画社会推進行動計画策定
・シンボルタワーを役場に設置
・「ミニ議会」女性団体と行政の交流会
・男性の意識改革をはかるための親子料理コンテスト
・男女共同参画セミナー
・男女共同参画町政懇談会
・「今、女性が輝くとき！」福島敦子さん講演会
・「男女共同参画都市宣言」記念式典
東京大学教授 上野千鶴子さん講演会等

お問い合わせ先 大須賀町役場企画課女性政策係 0537-48-3111

講座・講演 秋冬INDEX

各市町村でも男女共同参画社会の実現に向けて、「男女共同参画社会基本法」などを学習する講座や講演会などが開かれます。詳しくは各市町村の女性行政担当までお問い合わせの上、ご参加ください。

Table with 3 columns: City/Town/Village, Event Name, Date, and Contact Info. Lists various seminars and lectures across different municipalities in Shizuoka Prefecture.

講座・講演名については仮題のものもあります。この他にも男女共同参画社会の実現を目指し、講座や講演会が予定されています。各市町村女性行政担当までお問い合わせください。

INFORMATION 「あざれあ」から情報をお届けします

静岡県女性総合センターあざれあのホームページでは、主催講座・調査研究事業・女性関連の出版物・県内外の女性関連の機関や施設・県内の女性グループなどを検索できます。

http://www2.shizuokanet.ne.jp/azarea/azareahome.html

あざれあ図書室には、一般の図書館では揃えていない女性問題のミニコミ誌や団体誌などもあり閲覧できます。「JJネットニュース」「女性ニュース」「メンズネットワーク」「日本DV防止・情報センターニュースレター」などや大学の女性学研究所発行の研究誌もあります。

054-255-8763 Fax054-255-8759 e-mail azlib@shizuokanet.ne.jp



ふじのくに from 1999. 7. 30 男女共同参画の日

今から123年前明治9年7月30日、浜松県榛原郡横岡村（現在の榛原郡金谷町）に住む女性たちが投票をした選挙だといわれています。静岡県ではこのことにちなみ、今年度から毎年7月30日を「ふじのくに・男女共同参画の日」とし、一人ひとりの個性を尊重し、責任を担う社会の実現に向けて、新

「ふじのくに・男女共同参画の日」宣言

21世紀を目前にして、男女共同参画社会基本法の制定をみました。男女がお互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、県民の共通の願いです。

静岡県では、明治9年7月30日に、全国に先駆けて、本県の女性が初めて選挙権を行使したことを記念して、今年度から毎年7月30日を「ふじのくに・男女共同参画の日」と定めました。

わたしたち静岡県民は、男女が対等かつ自立したひとりの人間としてお互いを認め合い、自分らしさを大切にしながら、家庭や職場をはじめ、社会のあらゆる分野に参画し、共に責任を担うイコールパートナーシップに基づく社会を、みんなで築きあげていきます。

以上ここに宣言いたします。

平成11年7月30日

静岡県知事 石川嘉延

北井久美子副知事による「ふじのくに・男女共同参画の日」宣言



「ふじのくに・男女共同参画の日」を宣言するにあたり、記念のつどいを、女性初の選挙が123年前に行われた地「金谷町」のお茶の郷で7月30日に開きました



寸劇「女性初の選挙」

第1部「記念のつどい」では、藤枝市に住む平均年齢7.9歳の「おばあちゃん劇団ほのお」のみなさんが、明治初期の女性たちの投票風景を寸劇で演じて再現しました。

メッセージ 「男女のパートナーシップ」 ~この日に寄せて~

野中広務内閣官房長官・男女共同参画担当大臣、杉野芳子さん（理容業・金谷町、写真）、伊藤徳之大須賀町長、岩崎恭子さん（バルセロナ五輪金メダリスト・沼津市）、鈴木光司さん（小説家・浜松市出身）からメッセージが寄せられました。



交流会 あなたの考える「男女共同参画社会は？」

第2部ではお茶の郷ならではのおいしい静岡茶の飲み方の講習を金谷茶商協会高柳智子さんから受けた後、交流会が開かれました。「みんなで話そう～女と男のこれからづくり～」では、高校生も加わって「男女共同参画社会を進めていくためにはどうしたらよいか」などが話し合われました。



静岡の女性参政権の歴史 一八七六（明治九）年七月三十日の朝、浜松県榛原郡横岡村（現在の静岡県榛原郡金谷町）に住む加藤きくは、身なりをあらためて家を出た。近所に住む加藤のおと誘い合わせ、打ちそろって浜松県公選民会の代議員を選挙するため投票にでかけたのである。二人とも以前に夫をうしなない、家の代表者たる戸主であった。――（静岡おんな百年より）



123年前の投票用紙が残っています。浜松県公選民会小区議長議員選挙投票用紙 五和村文書 明治9年7月30日 静岡県立中央図書館蔵

現在では「生まれる以前から男女ともに参政権がある」という人が圧倒的に多く、それがあたり前のようになりました。しかし、この参政権ひとつをとってみても、その裏には女性たちの長い活動の積み重ねがあったのです。加藤きく等の投票した七月三十日、この日をきっかけに男女が平等に政治に参画することの意義を一緒に考えていきたいと思います。参考文献 市原正恵著「静岡おんな百年」ドメス出版 一九八二年